

日本写真芸術学会 関西支部第5回シンポジウム 案内

関西支部代表 村中 修

テーマ：「関西における写真ギャラリーが果たした役割を検証する」

関西支部シンポジウムはこれまで「写真のアーカイブス」について議論を深めてきましたが、前回のシンポジウムでアーカイブについてはある程度議論が深められたことから、今回は視点を変えてアーカイブしていくべき対象でもある関西におけるギャラリーの活動を検証したいと考えます。

かつてアルフレッド・スティーグリッツが創設した 291Gallery のように、ギャラリーが果たした役割は少なくありません。1984年に大阪市で美術画廊の写真部門としてスタートした Picture Photo Space は、当時全国でも珍しかったオリジナルプリント扱うコマーシャルギャラリーの先駆けでした。多くの海外作家、国内作家の作品を展示すると共に、作家によるギャラリートークもあり、関西在住の写真作家や、写真を学ぶ学生にとっては写真の情報が得られる沙龙的な役割も果たしていました。また 1996年に写真専門ギャラリーとしてスタートし、現在は広く現代美術までを扱う The Third Gallery Aya は若手作家の育成にも力を入れてきました。そして、このようなコマーシャルギャラリーと異なり、作家が自らの作品を展示するために開いた「自主ギャラリー」も 70年代後半より活動を始めており、多くの若手作家の作品発表の場となってきました。これらのギャラリーが関西の写真シーンに与えた影響は非常に大きいと言えます。

今回のシンポジウムでは 1990年台から現在まで続くコマーシャルギャラリー The Third Gallery Aya 主宰綾智佳氏、80年台から現在まで自主ギャラリーを運営されてきた写真家阿部淳氏にパネラーとして御登壇いただいて現在までの活動を振り返ると共に、かつて阿部氏と共に自主ギャラリーを立ち上げた経験をお持ちの大阪芸術大学教授吉川直哉氏に加わっていただいたのパネルディスカッションで関西の写真シーンでギャラリーが果たした役割について議論を深めたいと思います。

日 程：2022年2月27日（日）14：00～17：00

会 場：オンライン開催

パネラー：The Third Gallery Aya 主宰 ギャラリスト 綾 智佳氏

Vacuum Gallery 運営メンバー 写真家 阿部 淳氏

大阪芸術大学教授 吉川直哉氏（日本写真芸術学会会員）

参加方法：下記よりオンライン申し込み

シンポジウム申請フォーム：<https://forms.gle/8x9FqTYocLzhZRcB6>

